第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060101 社会教育事務	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	社会教育法・粕屋町社会教育委員に関する条例	予算科目	会計	款	項	目	社会教育総務費
		行政計画	社会教育計画		一般会計	10	6	1	
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	1 地域のつながりを大切にしたまちづくり	施策	(2) 人と地域が輝くまちづくり活動の推進				

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○「地域寺子屋」など生涯学習活動を地域に還元する取組を、研修会等を通して町民に周知することで実施する行政区の増加につながった。
○元気な高齢者が社会参加を通じて生きがいをもった暮らしができるよう、地域活動団体の育成や高齢者の活動を支援した。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○協働のまちづくりの担い手となるボランティア人材は高齢化等により一部減少しており、生涯学習の充実による人材の育成や、ボランティアやまちづくり活動が活性化するためのネットワークづくりが必要となっている。
○1 億総活躍社会に向けて団塊の世代の高齢者を中心に、高齢者が地域活動の担い手として活躍できる機会の拡充が求められる。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○社会教育委員と各社会教育関係団体との連携強化を図る。
○高齢者などが自らの知識や経験・技能を活かし、学校や地域、社会教育施設、子育て支援施設等で学習支援を行うことで、高齢者の活動機会を創出し、異年齢等の多様な交流の機会をつくる。

2. 実施計画（PDCAサイクル）

計画(Plan)　事業目的

○社会教育委員や社会教育関係団体と連携し、社会教育を通して、「地域づくり」「人づくり」「つながりづくり」活動を推進する。

➤

計画(Plan)　実施方法

○社会教育委員の会を定期的に開催し、社会教育について協議や取組を行う。
○スポーツ推進委員や社会教育関係団体と協議を行い、社会教育計画書を立案・作成する。教育委員会へ提言し、生涯学習研修会にて発表する。

➤

実施(Do)　事業費（千円）

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	4,525	4,737
歳入（特定財源）	312	52

実施(Do)　実施結果

○社会教育委員の定例会を開催し、社会教育計画を立案・策定した。
　委員の資質向上のため各種研修会にも参加した。
○社会教育関係団体の活動を支援した。

➤

評価(Check)　課題

○定例会や計画策定合同会議を開催したが、長期に渡る感染症の影響により
　社会教育活動の減少や社会教育関係団体の会員数の減少が懸念される。

➤

改善(Action)　改善方法

○社会教育委員の定例会や計画策定合同会議を開催し、計画の立案・策定及び社会教育について協議を行う。
○社会教育計画を教育委員会へ提言し、生涯学習研修会にて発表する。
○社会教育関係団体の活性化のため活動支援を継続する。

3. 事業フロー（ロジックモデル）

①結果のアウトプット（どのような活動を行うのか）

○社会教育委員、社会教育関係団体に関する会議、研修の開催
○社会教育計画書の立案

➤

②効果のアウトプット（活動の結果どうなるのか）

○社会教育委員の計画立案や調査研究により、町の社会教育の振興が充実する。

➤

③アウトカム（町としてどうなるのか）

○社会教育を通じたまちづくりが拡大する。

活動指標（アウトプット）	年度	R1年度	R4年度	R7年度（最終）
社会教育委員の会の開催回数	目標値		12	12
	実績値	10	10	
単位：　回/年	達成率		83.3%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位：	達成率			

➤

成果指標（アウトカム）	年度	R1年度	R4年度	R7年度（最終）
社会教育委員研修会等への参加者数	目標値		50	80
	実績値	80	47	
単位：　人/年	達成率		94.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位：	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060105 分館活動支援事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	粕屋町公民館等整備費補助金交付規程	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	なし		一般会計 / 10 / 6 / 1		社会教育総務費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	1 地域のつながりを大切にしたまちづくり	施策	(1) 誰もが参加・交流できる地域活動の支援		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○公民館等の地域活動拠点の環境整備や研修会等の開催により地域活動を実践する人材の育成を進め、地域活動が活発になるよう支援を行った。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○町民意識調査では、地域行事の参加状況は、「まったく参加していない」方が38.8%と最も高く、町民が地域活動に参加する仕組みづくりが求められている。
○若い世代や集合住宅等の世帯を中心に地域活動の参加率が低下するなど、地域コミュニティの希薄化が進んでおり、幅広い町民が関心を持ち、参加できる地域活動の活性化が求められる。
○地域活動に関する町民との情報共有が不足しており、各種配布物やSNS を有効活用した、地域活動に関する幅広い情報発信が求められる。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○地域活動の参加率向上を図るため、地域活動に関する幅広い情報を発信する。
○公民館等の地域活動拠点の環境整備について、行政区と綿密な協議を行い適切な支援を行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

○分館活動を支援し、地域の生涯学習の推進及び地域コミュニティ活動の活性化を図る。

➤

計画(Plan)　実施方法

○生涯学習活動を支援するため、各種補助金を交付する。
○活動拠点となる公民館施設の充実を図るため、施設・設備の修繕や備品購入に対して補助金を交付する。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	29,474	27,970
歳入 (特定財源)	4,395	3,983

実施(Do)　実施結果

○公民館の施設・設備の修繕や備品購入に対する補助金や生涯学習計画書に基づいた補助金を交付し、生涯学習の活動拠点として、より良い活動ができるよう支援した。
○施設の大規模な改修工事について事業計画書に基づき補助金を交付した。

➤

評価(Check)　課題

○施設・設備の老朽化対策が必要となっている。
○長期間の活動制限の影響による地域活動の衰退や地域コミュニティの希薄化が懸念される。

➤

改善(Action)　改善方法

○活動拠点となる公民館施設の充実を図るため、施設・設備の修繕や備品等の施設環境の整備対する補助はもとより施設の大規模な改修工事についても支援する。
○各種補助金を交付し、地域活動や生涯学習活動の活性化を図る。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○分館による生涯学習活動の促進支援
○公民館の修繕、備品等の施設環境の整備

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○住民の分館活動が活発になる。
○公民館の施設環境が整う。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○分館を拠点とした地域活動を通じ、地域コミュニティの参加・交流が拡大する。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
自治公民館活動回数	目標値		240	270
	実績値	238	126	
単位:　回/年	達成率		52.5%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]公民館主催の生涯学習活動への延べ参加人数	目標値		42,000	44,000
	実績値	41,932	16,094	
単位:　人/年	達成率		38.3%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060103 文化活動事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	文化芸術基本法	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	粕屋町文化芸術推進基本計画		一般会計 / 10 / 6 / 1		社会教育総務費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○文化祭実行委員会(青年団、婦人会、文化協会で組織)による文化祭の企画運営を支援し、町民の文化・芸術活動を推進した。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○芸術、文化の発表の場を提供するとともに、芸術を身近に体験できる文化祭の開催が求められている。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○粕屋町文化芸術推進基本計画に基づき、様々な視点から文化芸術の推進を行う。
○文化祭実行委員会による文化祭の企画運営を支援し、町民の文化・芸術活動の発表の場を提供するとともに、芸術を身近に体験できるような文化祭を開催する。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)

事業目的

○文化芸術に触れあうことで、住民がより豊かに成長する。
○町民の文化芸術活動の発表の場とを提供するとともに、文化芸術に触れ合う機会を提供し、心や感性・創造力を育む。
○文化行事等を契機として、町民同士の交流を促進し、お互いに支え合うまちづくを推進する。

➤

計画(Plan)

実施方法

○文化協会や文化サークル等を支援し、文化芸術意識の高揚を図る。
○粕屋町文化芸術推進基本計画に基づき、文化芸術の振興や広報活動を行う。
○文化芸術活動の発表の場と文化芸術に触れ合う機会を提供するため、文化祭等の開催の支援を行う。
○文化活動応援助成金により、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体の活動支援を行う。

➤

実施(Do)

事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	1,025	6,852
歳入 (特定財源)	200	800

実施(Do)

実施結果

○感染防止対策を講じながら、3年振りに文化祭を開催した。こども館と連携し、わっしょいフェスタと同時に開催することで内容の充実と集客に繋がった。
○こども文化芸術ウィークを開催し、若い世代に様々な文化芸術の発表の場と触れ合う機会を提供した。
○コロナ禍の影響を受けた文化団体へ応援助成金による活動支援を行った。

➤

評価(Check)

課題

○長期に渡る活動自粛により、文化芸術団体やサークルの活動機会が減少し、新規会員の減少や高齢化が懸念される。
○文化芸術活動の発表の場や文化芸術に触れ合う機会が減少している。

➤

改善(Action)

改善方法

○文化協会や文化サークル等を支援し、文化芸術意識の高揚を図る。
○文化芸術活動の発表の場と文化芸術に触れ合う機会を提供するため、文化祭等の開催の支援を行う。
○粕屋町文化芸術推進基本計画に基づき、文化芸術の振興や広報活動を行う。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○文化祭の開催及び文化祭実行委員会への支援。
○文化協会の活動支援

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○住民の文化活動の発表機会をつくり、文化活動の振興につながる。
○文化協会の活動を支援することで、活動の充実、参加拡大につながる。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○住民の文化活動を支援することで、幅広い住民の芸術文化意識を高め、文化活動への参加が拡大する。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
作品出展・舞台出演参加者数	目標値		500	600
	実績値	502	452	
単位:　人	達成率		90.4%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
文化祭への来場者数	目標値		3,500	4,500
	実績値	3,500	2,500	
単位:　人	達成率		71.4%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060202 歴史文化財活用事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	重点P(魅力誇り)/R4重点
		根拠法令	文化財保護法、粕屋町文化財保護条例・規則	予算科目	会計	款	項	目	文化財保護費
		行政計画	阿恵官衙遺跡保存活用計画		一般会計	10	6	2	
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(2) 郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現				

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

〇歴史資料館における夏季の企画展や歴史講座、小中学生への学習連携も積極的に実施し、平成28 年度には来館者数が1 万人を突破することができた。
〇阿恵官衙遺跡の調査及び関係機関と協議を進め、令和元年度に粕屋町で初めてとなる国史跡に指定された。
〇地域の歴史の理解を深めるための副読本として、「小・中学生のための粕屋町の歴史」改訂版を作成した。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

〇貴重な文化財を通じた町の歴史や文化の理解を深める機会を充実するため、歴史資料館の企画展の内容や情報発信の工夫が必要となっている。
〇阿恵官衙遺跡については、史跡を将来に渡って保存するとともに、史跡公園の整備計画を策定して、町民の歴史教育の場として活用するほか、町民の憩いの場として親しまれる史跡のあり方の検討が求められる。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

〇阿恵官衙遺跡保存活用計画を策定して、将来的な史跡の保存と活用の方針を定めるとともに、国指定地の公有化を図って、史跡整備の計画及び設計を進める。
〇歴史資料館の企画展・講座のほか、学校の歴史授業においても阿恵官衙遺跡をテーマにした学習機会の創出に努める。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

〇阿恵官衙遺跡など、先人から受け継いだ文化財の保護・保全及び活用を推進し、地域の歴史に対する理解を深め、郷土愛の醸成と地域文化への高揚を図る。

➤

計画(Plan)　実施方法

〇歴史講座、企画展等を開催し、広報や町HPで周知を図るほか、行政区、駅、周辺自治体等へポスター配布を行う。
〇国庫補助事業を活用して、阿恵官衙遺跡史跡整備基本計画の基礎図となる地形測量図を作成する。
〇起債により阿恵官衙遺跡の公有化を行う。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	344,501	418,659
歳入 (特定財源)	323,896	400,124

実施(Do)　実施結果

〇阿恵官衙遺跡国指定記念シンポジウムのほか、歴史講座、古文書解読講座等を開催して地域文化への理解を深め、郷土愛の醸成を図った。
〇阿恵官衙遺跡史跡整備基本計画に資するため、地形測量図を作成した。
〇阿恵官衙遺跡を保存し、史跡整備を進めるため、用地取得を行った。また、県・町指定文化財の保存管理を行った。

➤

評価(Check)　課題

〇約2年ぶりに開館した歴史資料館の来館者数を増やすため、集客に努めなければならない。
〇阿恵官衙遺跡の史跡整備を進めるため、整備基本計画を策定する必要がある。

➤

改善(Action)　改善方法

〇企画展、講座等を開催する。
〇学校教育と連携して地域の歴史に触れる機会を創出する。
〇粕屋町史跡等整備検討委員会を設置して、専門的な見地から整備基本計画の策定を行う。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

〇国・県・町指定文化財の保存管理
〇文化財について調査・研究、普及啓発
〇歴史資料館の企画展示及び出前講座の実施・情報発信
〇学校と連携した歴史資料館の見学、歴史学習の支援

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

〇貴重な文化財を保存するとともに、地域や学校と連携した歴史学習の機会を提供することができる。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

〇文化財を次世代に継承するとともに、郷土の歴史に愛着と誇りを持ち、文化財に対する理解を深める。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
各種歴史教室等の講座数	目標値		40	45
	実績値	37	35	
単位:　回/年	達成率		87.5%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]歴史資料館の延べ来館者数	目標値		8,000	10,000
	実績値	7,667	0	
単位:　人/年	達成率		0.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060301 **遺跡発掘受託事業**	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	文化財保護法	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	なし		一般会計 / 10 / 6 / 3		遺跡発掘受託事業費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(2) 郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○開発に伴う発掘調査及び発掘調査報告書の作成を随時実施し、開発行為と埋蔵文化財調査の円滑化を図っている。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○民間開発に伴う発掘調査のほか、福岡東環状線建設工事、九州大学農学部付属原町農場の移転に伴う発掘調査が見込まれており、発掘調査を担当する調査員の確保を検討しなければならない。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○増加する発掘調査に対応して、開発行為と埋蔵文化財調査の円滑化を図るとともに、調査終了後に遅滞なく発掘調査報告書の刊行を行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)

事業目的

○試掘・確認調査を行い町内に所在する遺跡の把握に努めるとともに、新たに設定された埋蔵文化財包蔵地の周知を図る。また、開発行為によって破壊される遺跡を事前に調査し、記録・保存を行い、郷土の歴史を後世に残し、活用すること目的とする。

➤

計画(Plan)

実施方法

○開発事業者と協議を行い、破壊の免れない場合にのみ発掘調査を行う。発掘調査は人力によって緻密に行い、遺跡の情報抽出に努め、測量・写真撮影等により記録・保存を行う。
○現場終了後、遺跡の記録・保存・活用を目的として発掘調査報告書を作成し、研究機関や図書館等に配布する。

➤

実施(Do)

事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	29,111	12,704
歳入 (特定財源)	25,153	6,562

実施(Do)

実施結果

○開発事業者に対し、遺跡の周知・保護を進めるとともに、開発を行う際は事前の試掘・確認調査を行った。協議の結果、開発により破壊が免れない遺跡に関しては発掘調査を実施した。
○九州大学原町農場の移転に伴う確認調査を行った。
○令和2年度・令和3年度に調査を実施した遺跡の発掘調査報告書を作成した。

➤

評価(Check)

課題

○開発に伴う試掘・確認調査に加え、宅地分譲工事に伴う発掘調査、九州大学原町農場移転に伴う確認調査を行い、調査終了後に発掘調査報告書の作成等、係内で業務を分担をして遂行することができた。
○文化財保護のための種々の調査は遺跡保護の観点から開発行為前には必須であり、文化財の業務が遅延しないように取り組む必要がある。

➤

改善(Action)

改善方法

○九州大学原町農場の開発事業及び福岡東環状線の延伸工事、民間開発に伴う文化財調査の増加が今後見込まれる。
○発掘調査において民間委託による調査支援を活用する際も自治体職員が発掘調査現場に常駐し、調査の指示・監督を行わなければならないため、内部体制の充実が必要不可欠である。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○埋蔵文化財の発掘調査の実施
○発掘調査の記録・保存

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○遺跡を調査し、記録・保存を行うことで、将来に渡って遺跡の情報を活用することができる。
○調査の蓄積により、歴史教育や研究分野の発展にも貢献することができる。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○文化財を次世代に継承するとともに、郷土の歴史に誇りを持ち、文化財に対する理解を深める。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
発掘調査件数	目標値		1	3
	実績値	3	1	
単位:　件/年	達成率		100.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
発掘調査報告書刊行件数	目標値		2	3
	実績値	3	2	
単位:　件/年	達成率		100.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060501 人権教育事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	粕屋町社会人権・啓発推進計画		一般会計 / 10 / 6 / 4		人権教育費
基本目標	3　誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち	政策	5 誰もが心豊かに暮らせるまちづくり	施策	(1) 人権と平和を尊重し合う地域社会の確立		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○社会人権教育啓発推進計画に基づき、街頭啓発や各種大会の開催、また地域における人権教育学級を開催し、人権意識の高揚を図った。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○外国人居住者の増加など、住民の価値観の多様化が進む中、町民一人ひとりが個性や能力を発揮できる社会を実現するため、人権教育・啓発活動をさらに推進する必要がある。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○社会人権・啓発推進計画に基づき、街頭啓発や各種大会の開催、また地域における人権教育学級を開催し、人権意識の向上を図る。
○価値観の多様化が進む中で、新たな人権問題が発生しているため、正しい情報を発信し、すべての人がお互いの人権を尊重しあう社会をつくるよう啓発を行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

○すべての町民が人権尊重の理念に対する理解を深めることができるよう、人権に関する学びの充実に努め、平等な社会の実現を目指す。
○人権問題に関する正しい認識と日常生活において態度や行動にあらわれるような人権感覚の涵養や、真に人権が尊重されるまちづくりを目指そうとする意欲や自信を持つことができるようにする。

➤

計画(Plan)　実施方法

○街頭啓発や広報誌で人権講演会や研修会等の開催と参加を広く町民へ周知する。
○各分館における人権学習の実施を推進する。
○人権擁護委員の活動を支援する。(特設人権相談、人権の花運動)
○人権の花運動の実施。(各小学校3年生対象、R4大川小学校)
○パートナーシップ宣誓制度の実施。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	10,154	11,756
歳入 (特定財源)	351	470

実施(Do)　実施結果

○「三本大会」「人権を尊重する町民のつどい」を開催し、人権意識の高揚を図った。
○啓発冊子「わかくさ」を作成し、町内全戸と小中学校に配布した。
○公民館での地域人権学習は、17分館で実施した。
○人権擁護委員は、人権相談を定期的に開催した。また、人権の花運動を大川小学校で実施した。
○多様な性を尊重するため、パートナーシップ・ファミリーシップ制度の運用を始めた。

➤

評価(Check)　課題

○SNSに起因するものなど、新たな人権問題が発生しており、様々な人権問題に対応する必要がある。
○人権について正しい知識と情報を発信し、すべての人がお互いの人権を尊重しあう社会をつくるよう啓発を続ける。

➤

改善(Action)　改善方法

○社会人権・啓発推進計画に基づき、啓発活動や人権講演会・研修会等を開催し、町民の人権意識の向上を図る。
○地域における人権教育の取組を推進する。
○人権擁護委員の活動を支援する。(特設人権相談、人権の花運動)
○人権の花運動に取り組む。(各小学校3年生対象、R5仲原小学校)

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○人権を尊重する町民のつどいの開催、青少年育成町民の会、人権問題啓発強調月間、社会を明るくする運動強調月間大会の開催
○街頭啓発活動の実施
○人権啓発冊子の全戸配布

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○講演会や研修会、講座等の人権学習を通じ、町民の人権に対する学習・啓発ができる。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○地域社会における町民の人権意識の向上が図られる。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
町主催人権関係大会の実施回数	目標値		2	2
	実績値	2	2	
単位:　回/年	達成率		100.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
町主催人権関係大会の延べ参加人数	目標値		600	1,100
	実績値	1,185	863	
単位:　人/年	達成率		143.8%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060601 **青少年育成事業**	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	重点P(魅力誇り)
		根拠法令	福岡県青少年健全育成条例	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		青少年育成費
		行政計画	青少年健全育成指導計画		一般会計 / 10 / 6 / 5		
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	3 未来を担う子どもたちを育むまちづくり	施策	(2) 地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○町立の幼稚園・小学校・中学校での家庭教育学級への支援や小学校や地域公民館での寺子屋事業の活動を支援した。また、成人式を実行委員会形式で開催し、地域行事への参加を促す取組みを行った。
○「地域通学合宿」「ときめき体験」等の事業を通じ地域住民との主体的なふれあいや助け合いを通して、青少年が心豊かに育つ環境づくりを進めた。
○子どもたちの愛郷心を育むため、地域住民による授業、校外学習活動、地域行事への参加等を通して、地域の歴史文化について学ぶ活動を実施した。
○NPO 法人アジア太平洋子ども会議事務局と連携し、ホストファミリーの受入れを支援し、町民の国際交流活動を推進した。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○子どもたちが学校や家庭だけでなく、地域の人々とのふれあいを通じて自主性、社会性を育む環境づくりは重要であり、行政区における寺子屋事業や様々な交流活動を展開できる人材の確保を含めた充実が求められる。
○寺子屋、地域通学合宿の開催団体が増えるよう支援を継続的に行う。
○子どもが地域を学び、知る、ふるさと教育による粕屋町への愛郷心を育む取り組みを継続していくことが求められる。
○国際交流活動は、今後も多くの子ども達が様々な国の文化を感じ、国際感覚を養う機会が必要である。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○国際交流活動では魅力を広報等にて周知し、多くの町民に参加してもらい、国際交流を体験する機会を増やす。
○行政区、子ども会育成会と連携し、青少年健全育成の担い手の育成を行う。
○寺子屋、地域通学合宿の開催団体が増えるよう支援を継続的に行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)

事業目的

○地域住民とのふれあいを通じて、子どもたちの自主性や社会性を育む。
○地域を学び、知る、ふるさと教育による粕屋町への愛郷心を育む。
○国際感覚を養い心豊かな粕屋の青少年を育成する。

➤

計画(Plan)

実施方法

○行政区、育成会等と連携し、青少年健全育成の担い手となる人材を発掘・育成する。
○寺子屋、地域通学合宿の開催団体が増えるよう継続的に支援する。
○地域学校協働活動を推進する。
○国際交流活動では魅力を広報等にて周知し、多くの町民に参加してもらい、国際交流を体験する機会を増やす。

➤

実施(Do)

事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	7,249	9,759
歳入 (特定財源)	2,059	3,353

実施(Do)

実施結果

○20歳のつどい(成人式)を新成人による実行委員会形式で開催した。
○家庭教育学級や小学校や地域公民館での寺子屋事業の活動支援や補助金を交付した。
○青少年健全育成や担い手の育成のため、各種団体へ活動支援と補助金を交付した。(指導員・町内巡回・補導員・子育連・PTA連)

➤

評価(Check)

課題

○活動の再開や継続のために支援する必要がある。
○活動機会が減少している。
○地域活動を推進するため、コーディネーターを配置する必要がある。

➤

改善(Action)

改善方法

○行政区、育成会等と連携し、青少年健全育成の担い手を育成する。
○寺子屋、地域通学合宿の開催団体が増えるよう継続的に支援する。
○地域学校協働活動を推進するため、地域コーディネーターとなる人材を発掘する。
○国際交流活動では魅力を広報等にて周知し、多くの町民に参加してもらい、国際交流を体験する機会を増やす。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○非行防止活動の実施(青少年指導員の配置、町内巡回の実施等)
○青少年健全育成活動の実施
○PTA連絡協議会の支援・家庭教育学級の支援
○小学校及び地域公民館における寺子屋事業支援
○国際交流事業(ホストファミリーの募集等の支援)
○成人式の実施

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○青少年の非行を未然に防止することができる。
○地域の体験活動を推進し、生きる力を育むことができる。
○家庭教育力の向上が期待される。
○地域の児童の学力向上、学習支援及び地域での居場所ができる。
○子どもに対する国際交流の場の提供をすることで、広い視野を持ち、異文化への理解が進む。
○成人式参加者に、大人としての自覚と責任、決意を認識させることができる。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○地域で子どもを守り、健全に育成する活動が広がるとともに、子どもたちが地域と交流することでふるさとに対する意識が高まる。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
家庭学級の開催回数	目標値		40	50
	実績値	37	32	
単位:　回/年	達成率		80.0%	0.0%
地域コーディネーターの育成講座の実施	目標値		1	2
	実績値		0	
単位:　回/年	達成率		0.0%	0.0%

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]家庭教育学級延べ参加者数	目標値		2,200	3,000
	実績値	2,264	2,107	
単位:　人/年	達成率		95.8%	0.0%
地域コーディネーター数	目標値		2	4
	実績値		0	
単位:　人	達成率		0.0%	0.0%

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060701 生涯学習推進事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	粕屋町人材登録派遣事業実施要綱	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	社会教育計画		一般会計 / 10 / 6 / 6		生涯学習推進費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○住民の生涯学習に寄与するため様々な講座、自主サークル、自主事業の講演会を開催した。
○生涯学習に繋がる特技や技術を持つ人材を募集し、地域行事等に派遣することにより学びの機会を充実させ、生涯学習の活性化を図った。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○価値観の多様化が進む中、様々な世代のライフステージに応じた学びによる自己実現へのニーズは高まっており、社会教育関係団体を中心に地域人材の活用を視野に入れた町民のニーズに応じた講座等の企画・実施が求められる。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○生涯学習関連施設を有効活用し、町民のニーズに応じた学習や活動ができる環境づくりを行う。
○地域の人材や文化資源の活用等を通じて、生涯を通して学び活動する生涯学習の活性化を図る。

2. 実施計画（PDCAサイクル）

計画(Plan)　事業目的

○活力あるまちづくりを目指して、人々が自由に学ぶことができる環境をつくる。
○各団体の活性化を図り、コミュニティーリーダーを育成する。

➤

計画(Plan)　実施方法

○生涯学習関連施設を有効活用し、町民のニーズに応じた学習や活動ができる環境づくりを行う。
○地域人材の活用を視野に入れた町民のニーズに応じた講座等の企画・実施を行う。

➤

実施(Do)　事業費（千円）

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	259	471
歳入（特定財源）	0	0

実施(Do)　実施結果

○生涯学習関連施設を有効活用し、町民のニーズに応じた講座を開催した。
○町民のニーズに応じ、人材派遣を行った。
○コミュニティーリーダーを育成するため、活動支援や補助金交付により各団体の活性化を図った。

➤

評価(Check)　課題

○活動機会が減少し、各団体の会員数が減少している。

➤

改善(Action)　改善方法

○町民のニーズに応じた学習や活動ができる環境づくりを行う。
○地域人材を活用し、町民のニーズに応じた講座等の企画・実施を行う。
○地域活動団体への継続的な支援により、団体の活性化を図る。

3. 事業フロー（ロジックモデル）

①結果のアウトプット（どのような活動を行うのか）

○生涯学習振興のための研修の実施
○生涯学習に関する講演の実施
○生涯学習に繋がる特技や技術を持った人材の募集・登録・派遣

➤

②効果のアウトプット（活動の結果どうなるのか）

○生涯学習の基盤整備や学習機会が整う。
○地域人材の生涯学習への登用により、学習環境が充実する。

➤

③アウトカム（町としてどうなるのか）

○住民の学びの環境が向上することで住民の学習意欲が高まる。
○技術等をもった住民の活躍の場を広げることで、地域参加の拡大や生きがいづくりにつながる。

活動指標（アウトプット）	年度	R1年度	R4年度	R7年度（最終）
人材登録者数	目標値		120	150
	実績値	120	84	
単位：　人	達成率		70.0%	0.0%
生涯学習講座の実施回数	目標値		20	25
	実績値	22	20	
単位：　回/年	達成率		100.0%	0.0%

➤

成果指標（アウトカム）	年度	R1年度	R4年度	R7年度（最終）
人材派遣回数	目標値		20	50
	実績値	29	35	
単位：　回/年	達成率		175.0%	0.0%
生涯学習講座の延べ参加者数	目標値		200	300
	実績値	244	396	
単位：　人/年	達成率		198.0%	0.0%

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11060901 図書館管理運営事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	図書館・歴史資料館設置条例　管理運営規則　読書ボランティア団体助成金交付要綱	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目	図書館費	
		行政計画	粕屋町子ども読書活動推進計画		一般会計 / 10 / 6 / 7		
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

〇町民が自ら学べる環境を整えるため、図書館資料の充実と空調機の更新を行った。
〇ボランティア養成講座や雑学セミナーを開催し、町民の生涯学習の場の提供とボランティアの育成を行なった。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

〇図書館を、安全で快適な生涯学習の場のひとつとして提供し環境を整えると共に、町民のニーズに応じた講座等を開催する。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

〇第4次子ども読書推進計画に基づき、各関係機関と連携・協力しつつ子どもの読書環境を整える。
〇適切に施設の維持・管理を行うことで、安全で快適な空間を提供し、すべての年代の利用者が気軽に立ち寄り余暇を過ごせる施設を目指す。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

〇豊かな読書経験により、想像力があり心豊かなこどもを育成するため。
〇生涯学習施設として、全ての町民に学習の場を提供し、知的要求に応える場を保障するため。

➤

計画(Plan)　実施方法

〇「粕屋町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちが読書に親しみ習慣として身につくように子どもと関わる施設や団体と連携し、子どもの読書活動を支援する。
〇安全で快適な施設空間を提供できるように、計画的に施設や設備の改修を行う。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	95,933	100,326
歳入 (特定財源)	4,518	15,192

実施(Do)　実施結果

〇コロナ感染防止対策を図りながら、おはなし会等の図書館事業を実施した。
〇快適な施設空間を提供できるよう施設や設備の修繕・改修を行った。

➤

評価(Check)　課題

〇図書館でのイベントの開催等がコロナ感染の収束により、事業再開できた。
〇老朽化による機械による故障等の不具合に対応した。

➤

改善(Action)　改善方法

〇事業等の再開により、住民の学びの機会や住民同士との交流機会が増えてきた。
〇安全で快適な施設空間を提供できるよう整備を進めた。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

〇図書等の貸出およびインターネット端末を開放した情報提供。
〇親しみやすく利用しやすい図書館づくりに向けたイベントの開催

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

〇図書館の利用者が増える。
〇図書館でのイベントの開催等により、来館者が増加する。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

〇図書館の利用拡大により、住民の学びの機会や住民同士との交流機会が充実する。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
イベント開催回数	目標値		180	200
	実績値	164	203	
単位:　回/年	達成率		112.8%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]粕屋町立図書館の延べ来館者数	目標値		180,000	200,000
	実績値	183,744	144,893	
単位:　人/年	達成率		80.5%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11061001 生涯学習センター管理運営事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	粕屋町立生涯学習センター設置条例	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画	粕屋町文化芸術推進基本計画		一般会計 / 10 / 6 / 8		生涯学習センター運営費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○生涯学習施設において自主事業や教室・講座を実施するとともに利用者の安全確保を重点においた施設や設備の維持修繕に努めました。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○価値観の多様化が進む中、様々な世代のライフステージに応じた学びによる自己実現へのニーズは高まっており、町民のニーズに応じた講座等の企画・実施が求められる。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○町民のニーズに応じた自主事業や教室・講座を実施する。
○利用者の安全確保に重点を置いた施設設備の維持修繕を行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)

事業目的

○生涯学習の拠点として、町民一人ひとりの学習ニーズに応え、学習意欲の向上を図る。
○文化芸術の発信拠点として、町民へ質の高い芸術に触れる機会をつくり、文化水準の向上を図る。
○生涯学習の拠点として、利用者の安全と利便性向上を図る。

➤

計画(Plan)

実施方法

○町民のニーズに応じた自主事業や教室・講座を実施する。
○町民が簡単に情報収集できるよう、LINEの公式アカウントやチラシを作成する。
○町の広報紙やLINE等を活用して、各教室やサークルの募集・活動紹介を行い、自主事業や講演会等について周知のため情報発信を行う。
○利用者の安全確保と快適な施設環境を提供できるよう、施設・設備・備品の適正な維持管理を行う。

➤

実施(Do)

事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	117,966	157,608
歳入 (特定財源)	61,967	68,705

実施(Do)

実施結果

○自主事業8種、自主講座・教室を21種開催した。
○町の広報紙やLINEを活用して、各種事業、講座等の情報発信を行った。
○利用者の安全と利便性向上のため、さくらホールの音響設備や舞台機構の改修工事、多目的ホールの観覧席改修工事やトイレの改修工事を実施した。

➤

評価(Check)

課題

○参加が少ない教室・講座があるため、新たな内容での事業を考える必要がある。
○一人でも多くの町民に利用していただけるよう情報発信を行う。
○利用者の安全・利便性確保のため、施設設備の適正な管理が必要。

➤

改善(Action)

改善方法

○町民ニーズ応じた事業を開催する。
○多くの町民がに利用していただけるよう、事業案内や各講座・教室等の情報発信を積極的に行う。
○利用者の安全確保と快適な施設環境を提供できるよう、施設設備・備品等の適正な維持管理に努める。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○様々な講座、自主サークル、自主事業の講演会等の開催
○サンレイクかすやの備品、設備、修理

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○生涯学習センターの講座等の充実、利用しやすい環境の整備により、住民の利用機会が拡大する。
○住民が安心・安全に利用できる環境が整う。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○生涯学習センターの利用が拡大することで、住民の生涯学習意欲が高まり、教室への加入や教室間の交流が拡大する。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
サークル・講座数	目標値		100	140
	実績値	84	107	
単位:　回/年	達成率		107.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]粕屋町立生涯学習センターの延べ利用者数	目標値		180,000	250,000
	実績値	173,938	162,090	
単位:　人/年	達成率		90.1%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11070101 生涯スポーツ事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	ー
		根拠法令	スポ推規則･助成金交付要綱･指導員設置要綱	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		
		行政計画			一般会計 / 10 / 7 / 1		保健体育総務費
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

〇町民運動会を中心に各種スポーツ大会を関係団体と協力して実施した。また、各種スポーツ団体に対しては、スポーツ協会と連携し支援を行い、地域におけるスポーツ活動を推進した。
〇体育団体の周知活動の一環としてホームページの紹介記事の掲載を行った。また、スポーツ協会と連携し、各種活動に対して支援した。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

〇健康志向の高まりに合わせ、各種スポーツ団体の活動を支援し、地域におけるスポーツ活動の普及･促進が求められる。
〇スポーツ団体の活動を支援し、特に広報活動に力を注ぎ、地域におけるスポーツ活動を推進する。また、軽スポーツ大会等を通して障がい者スポーツの普及に努める。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

〇スポーツ推進委員を中心に障がい者スポーツを取り入れた軽スポーツ大会等を開催する。
〇スポーツ協会と連携し、各種スポーツ団体への支援を継続的に行う。
〇ジュニアスポーツ団体と連携し、ジュニアスポーツの活性化を行う。
〇郡民、県民スポーツ大会への選手派遣を行う。
〇九州大会や全国大会等へ出場する選手や団体へ支援を行う。
〇各施設設備の維持管理を行う。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

〇「町民1人に1スポーツを」を重点に気軽にスポーツに親しむことが出来る機械を提供し、町民のスポーツによる健康づくりや体力づくり、地域等のコミュニティ形成、青少年健全育成にしすることを目的とする。

➤

計画(Plan)　実施方法

〇スポーツ推進委員と連携し、地域や団体へ軽スポーツの普及に努める。特に行政区への働きかけを行い、軽スポーツの普及に務める。
〇スポーツ協会と連携し、各種スポーツ団体の活動をサポートする。
〇ジュニアスポーツ団体と連携し、広報を行うとともに活動支援を行う。
〇郡民、県民スポーツ大会への選手派遣や九州大会や全国大会等へ出場する選手や団体へ支援を行う。
〇各スポーツ施設整備の維持管理を行う。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	18,265	24,679
歳入 (特定財源)	2,807	4,306

実施(Do)　実施結果

〇スポーツ推進委員と連携し分館役員対象の軽スポーツ説明会を実施した。
〇スポーツ協会と連携し、各種スポーツ団体の活動をサポートするため補助金を交付した。
〇ジュニアスポーツ団体と連携し、団体紹介のホームページを更新し、広報を行うとともに補助金を交付し、活動支援を行った。
〇九州大会や全国大会等へ出場する選手や団体へ助成金交付等の支援を行った。
〇各スポーツ施設設備の維持管理を適切に行った。

➤

評価(Check)　課題

〇新型コロナウイルス感染拡大傾向のため、町民運動会は中止としたが、それ以外の町スポーツ行事は実施した。
〇スポーツ団体主催の大会についてスポーツ補助金を交付し、団体の活動支援を行った。
〇新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体ともに会員が減少している。

➤

改善(Action)　改善方法

〇スポーツ推進委員と連携し、地域や団体へ軽スポーツの普及に努める。特に行政区への働きかけを継続して行い、軽スポーツの普及に務める。
〇スポーツ協会と連携し、各種スポーツ団体の活動をサポートする。
〇ジュニアスポーツ団体と連携し、広報を行うとともに活動支援を行う。
〇郡民、県民スポーツ大会への選手派遣や九州大会や全国大会等へ出場する選手や団体へ支援を行う。
〇各スポーツ施設設備の維持管理を行う。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

〇町が主催･後援するスポーツ行事の周知･参加促進
〇スポーツ協会の活動支援、スポーツ推進委員の派遣･指導による町民のスポーツ参加促進
〇老朽化した社会体育施設の改修･修繕
〇ジュニアスポーツ団体の情報提供･支援

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

〇スポーツ行事やスポーツ推進委員の派遣･指導により、住民のスポーツ参加が広がる。
〇スポーツ協会の支援により、幅広い住民のスポーツ振興が図られる。
〇安全に利用できる施設環境が整う。
〇ジュニアスポーツの活性化や青少年健全育成が進む。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

〇多様なスポーツ活動の参加機会の拡大により、スポーツを通じて町民の健康づくりや地域住民との交流が進む。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
町が主催･後援するスポーツ行事の開催数	目標値		5	10
	実績値	0	8	
単位:　回/年	達成率		160.0%	0.0%
ジュニアスポーツ団体補助交付団体数	目標値		32	33
	実績値	31	27	
単位:　団体	達成率		84.4%	0.0%

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
町が主催･後援するスポーツ行事参加選手延べ人数	目標値		600	1,200
	実績値	0	1,277	
単位:　人/年	達成率		212.8%	0.0%
ジュニア活動応援助成金交付件数	目標値		20	25
	実績値	0	30	
単位:　件	達成率		150.0%	0.0%

第5次粕屋町総合計画　後期基本計画　事務事業シート

ver.2.0

事業名	11070301 総合体育館管理運営事業	所管課	教育委員会事務局　社会教育課	事業年度	令和4年度	事業区分	R4重点
		根拠法令	粕屋町総合体育館設置条例 粕屋町総合体育館設置条例施行規則	予算科目	会計 / 款 / 項 / 目		総合体育館運営費
		行政計画	なし		一般会計 / 10 / 7 / 2		
基本目標	1　つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち	政策	4 身近な学びと交流があるまちづくり	施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進		

1. 事務事業の取組方向

前期基本計画の主な取組と成果

○総合体育館を体力づくりや交流の場として利用してもらうために、個人や各団体等のスポーツ利用の促進を図るとともに、各種教室の企画運営を行った。

➤

後期基本計画のまちづくりの課題と展望

○多くの町民がスポーツに親しむことができる環境づくりのため、総合体育館は町の拠点施設として、安全性に考慮し、各種教室の開催や個人・各団体等のスポーツ利用の促進が必要である。

➤

後期基本計画中における事務事業の取組方向

○利用者のニーズにあった各種教室を企画し開催するとともに、老朽化した施設設備や機器の改修を行い、安全で快適な施設提供をすることで利用者増を目指す。

2. 実施計画(PDCAサイクル)

計画(Plan)　事業目的

○個人の施設利用や各種団体等のスポーツ大会やレクリエーションでの利用により、体力づくり・健康づくり・交流の場として施設を提供する。
○スポーツを身近に感じるよう、各種教室を企画し開催する。
○総合体育館の長寿命化計画を進めて行く。

➤

計画(Plan)　実施方法

○幼児から高齢者まで、多種多様なニーズに対応できるよう、各種教室を企画・運営する。
○利用者の安全確保を最優先に、快適な施設を提供できるよう、施設や設備の修繕・改修を行う。
○長寿命化計画を進めるため、大規模改造工事に着手する。

➤

実施(Do)　事業費(千円)

年度	R3決算額	R4決算額
歳出	220,742	480,038
歳入 (特定財源)	89,630	340,899

実施(Do)　実施結果

○新型コロナウイルス感染症の影響などにより、利用者数は、R3年と比べると増加に転じたもののコロナ禍前の水準まで戻っていない。そのような中でも利用者の満足度等の向上のためさまざまな自主事業を開催し、体力維持や健康増進に努めた。
○長寿命化計画による大規模改造工事に着手し、令和4年度は主に仮設工事や外壁工事に取り掛かった。

➤

評価(Check)　課題

○施設利用者が増えるようにニーズにあった教室を企画するとともに、老朽化する施設や設備を安心・安全にりようできるように円券、検査等を行いながら適正な施設の維持管理をする必要がある。
○長寿命化計画に沿った大規模改造工事を実施し、安心、安全に施設を管理していく必要がある。

➤

改善(Action)　改善方法

○利用者の多種多様なニーズに対応するため、さまざまな教室を企画運営する。
○利用者が安全、安心に施設利用できるようにするため、施設・設備等の点検、検査等を行うとともに必要なメンテナンスを適宜行う。
○施設の長寿命化を図るために大規模改造工事を行う。

3. 事業フロー(ロジックモデル)

①結果のアウトプット(どのような活動を行うのか)

○総合体育館の各種教室の企画・運営
○施設利用者への貸出事業
○各種スポーツ事業、教室の開催
○総合体育館の設備の充実及び維持管理
○総合体育館の長寿命化を図る。

➤

②効果のアウトプット(活動の結果どうなるのか)

○各種教室の利用者が増える。
○スポーツ大会やレクリエーションでの利用者が増える。
○安全に利用できる施設環境が整う。

➤

③アウトカム(町としてどうなるのか)

○総合体育館を通じた住民の健康づくり、地域住民の交流活動が広がる。

活動指標(アウトプット)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
総合体育館の各種教室の実施参加人数	目標値		15,000	30,000
	実績値	28,560	17,526	
単位:　回/年	達成率		116.8%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			

➤

成果指標(アウトカム)	年度	R1年度	R4年度	R7年度(最終)
[施策]粕屋町総合体育館の延べ利用者数	目標値		80,000	250,000
	実績値	207,495	146,377	
単位:　人/年	達成率		183.0%	0.0%
	目標値			
	実績値			
単位:	達成率			